



## 卒業生による海外大学進学相談会 2024 開催の案内（全学年生徒・保護者対象）

今年も本校を卒業後海外大学で学ぶ学生諸君から後輩のために海外大学進学相談会を開催したいとの有難い申し出を頂きました。海外大学で学ぶ意義や苦勞など経験者だから語れる生の情報を聞く又とない機会になると思います。関心のある在校生諸君はぜひ参加してみてください。

今回の相談会の趣旨（学生諸君から届いた紹介文をそのまま引用します）

この度、アメリカ・カナダの大学に進学した OB 6 名により、「海外大学進学相談会 2024」を開催します。このイベントは、海外大学への出願・進学を経験した OB が、在校生の皆さんにその経験を還元すべく企画するものです。海外大学を志望した経緯から出願までのプロセス、現地での生活の実情などについて、率直にお話しする予定です。海外大学での勉学や生活、出願の過程に関する 1 時間弱のプレゼンテーションに引き続き、質疑応答・フリーインタラクションの時間を約 1 時間設け、皆さんの疑問に丁寧にお答えしたいと考えています。海外大学に漠然とした興味を抱いている中学生から、出願を具体的に検討している高校 2、3 生まで、海外大学進学に関心のある皆さんの参加をお待ちしております。

日時：6 月 15 日（土）午後 1 3 時 3 0 分から 1 5 時 3 0 分ころまで

場所：本校講堂（1 号館 3 階）

当日参加予定卒業生

（対面参加） ・ 下河邊 太智さん（マサチューセッツ工科大学入学予定）

・ 山田 健人 さん（ハーバード大学卒）

（オンライン参加） ・ 双川 凜生さん（ジョージア工科大学）

・ 塩川 龍哉さん（トロント大学）

・ 池田 隼さん（カリフォルニア工科大学）

・ 川上 礼志郎さん（スワースモワ大学）

対象：中 1～高 3 の在校生及びその保護者

申し込み：資料準備の都合もあるので 6 月 5 日（水）までにグローバル教育部（2 号館 2 階）まで生徒が来室の上、必要事項を記入して下さい。その際に生徒の参加有無・保護者の参加有無（参加の場合は人数も）を記入していただきますので来室前にあらかじめご確認をお願い致します。新型コロナウイルス 5 類移行を踏まえて今年は保護者の人数制限は設けない予定です。

\*保護者の方はご来校の際、恐れ入りますが入校証とスリッパをご持参下さい。



## オーストラリア留学フェアのお知らせ（全学年生徒・保護者対象）

日時：6月1日（土）12時～17時

場所：赤坂インターシティコンファレンス

東京メトロ 銀座線・南北線 溜池山王駅（14番出口同ビル直結）

東京メトロ 丸ノ内線・千代田線 国会議事堂前駅（14番出口同ビル直結）

内容：約40の教育機関が来日し、ブースで個別相談ができます。

主催：オーストラリア大使館商務部

費用：無料

申込：事前申し込みが必要です。申し込みは以下から各自でお願いします。

<https://austrade.eventsair.com/study-australia-fair-japan-korea-2024/japanese-rego/Site/Register>

当日の参加教育機関やセミナーについての詳細は以下の URL からご確認ください。

<https://austrade.eventsair.com/study-australia-fair-japan-korea-2024/japanese>



## 第27回日韓高校生交流キャンプの案内（高1～高3対象）

一般社団法人「日韓経済協会」が主催する第27回日韓高校生交流キャンプの案内が届きました。日韓の高校生が15名ずつ韓国ソウルで寝食を共にしながら密度の深い交流を深めることができるキャンプです。つい最近も韓国では少子化が急速に進んでいることを伝える報道があったばかりです。その背景には日本以上に厳しいとも言われる受験競争も影響していると言われています。同年代の韓国の高校生がどんなことを考えているのか関心のある生徒諸君はチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。相手国の言語で会話できる必要はないということです、ご安心下さい。

日程：2024年7月29日（月）～8月1日（木）

メタバースオンライントレーニング：7月13日（土）14時から約1時間

7月20日（土）14時から約1時間

両日ともオンライン参加が必須

キャンプ開催場所：韓国ソウル ソウルオリンピックパークホテル

募集人数：交流への関心が深い日本の高等学校在学学生15名

日本国籍を有する者。外国籍の場合は、日本の永住権を有し、かつ日本に居住する者

募集：下記のURLより所定参加申込入力、保護者の同意を得てから提出（オンライン上）

2024年5月8日（水）～19日（日）18時まで

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdadaZZVk4BshTB4ql2XHyhTO55HA61JVS5H99B7WRzbWijYw/viewform>

参加決定連絡：5月23日（木）

応募多数の場合は主催側で申込内容、学校別、男女別、学年別バランスを勘案し参加者を選抜。参加決定者宛に個別メール連絡（連絡は参加決定者のみ）。

参加費：20,000円

3泊4日間の宿泊・移動・食事・交流プログラム費用は主催者負担

但し、自宅から羽田空港までの交通費は個人負担

主催：一般社団法人日韓経済協会

事前説明会：2024年7月6日（土）午後東京にて

プログラム概要案（届いた文面を引用）

両国高校生が10人前後の日韓混成チームに分かれ、メタバースを利用した事前・期間中・事後トレーニングや交流活動を行ったり、ソウルのソーシャルベンチャーバレーや江原道春川（カンウォンド・チュンチョン）のアートセンターなどを訪れ、経済・文化の現場体験を行います。そのトレーニングや体験学習を基に、ソーシャルベンチャー起業案を企画・発表し、模擬ピッチを行います。これら現場体験や共同作業を通じて日韓高校生のより濃密な交流を図ります。

\*応募は各自でお願いします。告知が遅くなり申し訳ありませんが、締め切りが迫っていますので希望者はお早めにエントリーをお願いします。

## 高校カナダ短期留学レポート その2

高1・高2を対象とした本校カナダ短期留学プログラムが1月から3月まで実施され5名の生徒が参加しました。このプログラムはアルバータ州のエドモントンを舞台に実施され、ホームステイをしながら現地の2ヶ所の高校に分かれて通学するものです。前号の2名に続き、残り3名の生徒から寄せてもらった感想を掲載します。今年度参加を検討している生徒諸君は参考にしてみてくださいと幸いです。

カナダ留学：帰国子女の僕が何を学んだのか

5年3組 阿部 潤太

カナダ留学を決意した時、僕はよく周りに言われました。

「どうして帰国子女なのに、カナダに留学する必要があるのか？」

周囲からの問いかけに対する答えを見つけることは容易なことではありませんでした。

海外をもっとよく知り、グローバルに働きたいという自分には留学がぴったりだと思って決意したものの、周囲からの疑問に直面するたび、本当に留学が僕にとって意味のあるものなのかと不安になりました。しかし、カナダという異文化の中での経験こそが、私にとって全く新しく、多くの意味を持ちました。

まず、カナダでは、多様性が受け入れられ、尊重される社会を目の当たりにしました。カナダは人口の4分の1が移民であるなど、多様性に溢れた社会であり、私が小学生の頃イギリスで経験した移民が非常に少なかった社会とはまた異なっていました。僕のホストファミリーは、絵に描いたようなカナディアンな生活を送っていたために、カナダ人の生活がどのようなものかをよく説明してくれ、彼らのおかげでカナダ人の生活の一端を垣間見ることができました。毎週の日曜日に、近くの教会に行き、約2時間ほどお祈りしたことは、特に自分の印象に残っていることの一つと言えます。その一方で、僕の友人の多くは、インド、東南アジア、ヨーロッパ、アフリカなど多様な国や地域出身の人が多く、世界中の多様な文化や習慣に触れることができました。皆、食べる昼食も違えば、信じている宗教も異なっており、祈りの習慣なども全く異なっていました。彼らとの交流は、私の視野を広げ、異文化への理解を深めるきっかけとなりました。



次にカナダで僕が得たものといえば、英語力です。イギリスからの帰国子女なのに、英語力が向上するのかと言った不安はもちろんありましたが、実際留学を経験してみると、逆に英語力がもともとあると、より英語力が伸びることに気が付きました。英語力があると、様々な人々と積極的に会話をすることができ、そのおかげで、英語力が伸びるうえ、様々なことを多様な人々から学ぶことができるため、結果的に留学をより有意義なものにできるということだと思いました。僕としては、自分が帰国子女だったおかげで、留学を別の視点から捉え、より有意義なものにできたと感じています。



最後に僕が今回の留学で感じたことがひとつあります。それは、積極性の重要性です。留学は単なる外国での学習だけでなく、積極的な姿勢が不可欠であり、また重要視されることを理解しました。例えば、基本的に自分の考えや感情を明確に伝えることが必要であったり、友達を作る時も、限られた時間の中で友人関係を築き、多くの人と交流するには積極的なアプローチが重要です。留学で得られることは、ここに書き留め切れないほどあります。この3ヶ月は、僕の人生で最も成長できた3ヶ月であったと思っています。

## 留学を終えて

5年7組 谷口 慶

まだ足りないというのがカナダのアルバータへの三か月間の留学を終えた感想です。海外に住んだ経験はありましたが、実際に英語で現地の授業を受けるという体験は新鮮でもあり、とても未知に包まれたものでもありました。直前までは様々な悩みがありました。友達はあるのか、ホストファミリーとはうまくやっていけるのかなど。英語力全般を鍛えること、そして日常会話を現地の人と違和感なくできるようにするという目標をもって出発しました。

この留学全体を通して学んだことが主に2つあります。

一つ目は英語力がまだまだ足りないということです。

最初のころは友達は何を話しているのか追いつくの一生懸命でしたが、最後には理解しさらにそれに対して自分で意見を言ったりジョークを言ったりすることが出来ました。しかしそれでもまだまだ分からないところはたくさんあり、日本で学んだ英会話と現地の会話の違いを肌で感じました。今では現地の生徒がするようなよりカジュアルな会話、日常で起こったことを違和感なくシェアすること、今はそれを目標にしています。



二つ目は人々の温かさです。

現地の学校の先生方は、わからないところはないと聞いてくれたり、友達が遊びや昼食に誘ってくれたり、日々のあいさつ、家族からのメッセージや、けがした時の日本の学校の先生からのメールなど人々の温かさにじかに触れあうことが出来ました。友達とはもっと積極的に話しかけることが出来ました。ホストブラザーとはもっと日々の中で会話ができたホストファミリーの気遣いに十分に感謝を言えていない。現地の先生方にお礼の言葉をきちんと言えなかった。ほかにもたくさんの後悔があります。

「一期一会」という四字熟語をこれほどまでに重く感じることは人生のなかでなかなか体験できません。だからこそ人とのつながりを大事にし、その場その場で感謝を伝えることや交流を図ることが大事か反省しながらも感じました。

## カナダ短期留学を終えて

6年4組 小柳 跡武

今も時々「向こうは何時なんだろう」と思うことがある。カナダにいた頃はよく東京の時間を調べていた。八時間を引くのだったか足すのだったか今となっては忘れてしまったが。大体昼夜が逆転しているのは覚えている。これを書いているのが四月頭で帰ってきたのが三月中旬。日本に帰ってきてからまだ三週間しか経っていないのかと若干驚いている。今となっては遠い過去のことのように。もうだいたい元の自分、日本人としての小柳に戻っただろうか。親曰く帰ってきて二、三日はまだ向こうの雰囲気を引きずってた、悪く言うなら偉そうだった、とのこと。若干ショックだった。

また行きたいか、と聞かれたらイエスと答えたい。正直に言って三ヶ月では物足りなくらいだ。今度は一年間位。それくらいあれば変わったものも大きかっただろう。じっくりと親睦を深めたい奴がいっぱいいたのだ。友人関係とか諸々これからどんどん良くなっていくはずだったのに、という感じだ。惜しいところで終わってしまった、という感じがする。



現高1・高2の生徒諸君には6月に今年度カナダ短期留学の説明会を実施予定です。近日中にお知らせのプリントを教室で配布予定です。